

エレミヤ書の核

聖書：エレミヤ 2:13. 17:9. 13:23. 23:5-6. 33:16. 31:33-34

- I. エレミヤ書の核は、三つの事柄を含んでいます。すなわち、神はわたしたちから何を求めているのか、わたしたちは墮落した状態において何であるのか、キリストはわたしたちにとって何であるのかということです。わたしたちはこの三つの事柄を見るために、エレミヤ書の殻を「砕き」、内側の核に集中する必要があります。この核は、全聖書の教え全体です。
- II. 神がわたしたちから何を求めているかは、おもにエレミヤ書第2章13節で述べられており、それはわたしたちの神が生ける水の源泉であることを啓示しています：
 - A. 神のエコノミーにおける神の意図は、生ける水の源泉、源となって、わたしたちを満足させ、わたしたちの享受となることです。神が求めているのは、わたしたちが神をわたしたちの存在の源、源泉とすることです。神を生ける水の源泉とする唯一の道は、日々、神から飲むことです——エレミヤ 2:13. Iコリント 12:13. ローマ 11:36：
 1. このためには、わたしたちが絶えず主を呼び求め(感謝し、歓喜し、祈り、賛美することをもって)、生ける水の源泉としての彼から、歓喜をもって水をくむことが必要となります——イザヤ 12:3-4. ヨハネ 4:10, 14. ローマ 10:12. Iテサロニケ 5:16-18. 4:3 前半。
 2. イザヤ書第12章3節が示しているのは、わたしたちの救いとしての神を受け入れる道が、救いの泉から水をくむこと、すなわち、彼を飲むことであるということです——詩 36:8. ヨハネ 4:14. 7:37. Iコリント 12:13. 啓 22:17. 歴代上 16:8. 詩 105:1. 116:1-4, 12-13, 17：
 - a. わたしたちの救いとなるために、三一の神は手順を経て、命を与える霊と成り、生ける水、すなわち、命の水となりました。神の実際的な救いとは、生ける水としての手順を経た三一の神ご自身です——Iコリント 15:45. ヨハネ 7:37-39. 啓 7:17. 21:6. 22:1, 17。
 - b. 源泉は源であり、泉は源の湧き上がること、流れ出ることであり、川は流れです。「救いの泉」という用語が暗示するのは、救いが源、すなわち、源泉であるということです。わたしたちの救いとしての神は、源泉です(イザヤ 12:2)。キリストは、救いの泉であって、わたしたちに享受と経験を与えます(ヨハネ 4:14)。その霊は、わたしたちの内側におけるこの救いの流れです(7:38-39)。
 - c. わたしたちが救いを享受するために認識する必要のある事は、主ご自

身がわたしたちの救い、力、歌であるということと、わたしたちが彼の御名を呼び求めることによって、歓喜をもって、救いの泉から水をくむということです——イザヤ 12:2-3。

- d. 神聖な救いの泉から水をくむ道には、悔い改めること、呼び求めること、歌うこと、感謝すること、賛美すること、神の救いのみわざを告げ知らせることが含まれます——イザヤ 12:4-6。
- B. 生ける水はわたしたちの中へと入るとき、わたしたちに浸透し、わたしたちの全存在を経過し、わたしたちによって吸収されて、わたしたちが養われ、造り変えられ、同形化されて、栄光化されるようにします——イザヤ 12:3. ヨハネ 4:10, 14. ローマ 12:2. 8:29-30。
- C. 「わたしが与える水は、その人の内で源泉となり、湧き上がって、永遠の命へと至るのである」——ヨハネ 4:14 後半：
- 1. 三一の神は、神聖な三一において、三つの段階で流れます。すなわち、父は源泉であり、子は泉であり、霊は川です。
 - 2. 三一の神の流れは、「永遠の命へと至る」のです：
 - a. 新エルサレムは、永遠の命の総合計です。「へと至る」という言葉は、「となる」を意味します。こういうわけで、「永遠の命へと至る」は、永遠の命の総合計、すなわち、新エルサレムとなることを意味します。
 - b. わたしたちは生ける水を飲むことによって、永遠の命の総合計である新エルサレム、すなわち、流れる三一の神の目的地となります。
- D. 生ける水の源泉となることでの神の目標は、神の増し加わりとしての召会を生み出して、神の豊満とならせ、神を表現させることです。これが、神のエコノミーにおける神の心の願い、神の大いなる喜びです——エレミヤ 2:13. 哀 3:22-24. I コリント 1:9. エペソ 1:5, 9, 22-23。
- E. 生ける水としての神以外の何ものも、わたしたちの渇きをいやすことはできず、わたしたちを満足させることはできません。わたしたちの存在の中へと分与された神以外の何ものも、わたしたちを神の増し加わりとならせて神の表現とすることはできません——啓 22:1, 17。
- F. わたしたちは、神の民が命の水としての命の霊に欠けるときは、いつも問題を持つことを認識する必要があります。神の民が、生ける水としての救う霊をあふれるばかりに持つとき、彼ら自身の間の問題と、神に対する彼らの問題は解決します——出 17:1-7. 民 20:2-13。
- III. エレミヤ書の核のもう一つの面は、わたしたちが墮落した状態において何であるのかを暴露することです：

エレミヤ書と哀歌
メッセージ 2 (続き)

- A. 「心はすべてのものにまさって偽るもので、それはいやされることはない。だれがそれを知ることができよう？」——エレミヤ 17:9 :
1. 人の偽る、またいやされることのない心に関するこの言葉でさえ、神のエコノミーと彼の分与と関係があります。人の心は腐敗していて、偽るものであり、その状態はいやされることがありませんが、そのような心でさえ、神がその上に彼の命の律法を書き記す板となることができます——エレミヤ 31:33. 参照、IIコリント 3:3。
 2. これが啓示している事は、神はご自身を人の中へと分与する道を持っているということです。いったん神が人の中へと入ると、神は人の霊から人の心の中へと拡大します。これは、神のエコノミーにしたがった、墮落した人の心を対処する神の道です。
- B. 「クシ人は自分の皮膚を、豹は自分の斑点を変えることができようか？ もしできるならば、悪を行なうのに慣れたあなたがたも、善を行なうことができる」——エレミヤ 13:23 :
1. イスラエルは、生ける水の源、源泉である神を捨てたので(エレミヤ 2:13)、邪悪になりました。彼らは、変えることのできない罪深い性質を持っており、それはちょうど、変えることのできないクシ人の皮膚や豹の斑点のようでした。これは、墮落した人の真の状況を暴露します。
 2. わたしたちは墮落した人として、自分自身においては、自分自身によっては、自分自身をもっては、いやされることがなく、変えられることもできません——ローマ 7:18. マタイ 12:34-35. 15:7-11, 18-20. 歴代上 28:9. 参照、エゼキエル 36:26-27. エレミヤ 32:39-40。
- C. 栄光の中にある主のビジョンを真に見るすべての人は、自分の汚れに関して、良心の中で照らされます。どれだけわたしたちが自分自身に関して認識しているかは、どれだけわたしたちが主を見ているかにかかっています——イザヤ 6:5. ヨハネ 12:41. ヨブ 42:5-6. 参照、ルカ 5:8 :
1. わたしたちは主を見て暴露されればされるほど、ますます清められます。わたしたちと主との交わりは、主の血の絶え間ない清めによって維持される必要があります——Iヨハネ 1:7, 9。
 2. 新約の意味において、神を見ることは、わたしたちの個人的な経験において神を得ることと等しいです。神を得ることは、神の要素、命、性質において神を受け入れることです。それはわたしたちが神格においてではなく、命と性質において神となるためです。
 3. 神を見ることは、わたしたちを造り変えます(IIコリント 3:16, 18. マ

タイ 5:8)。なぜなら、わたしたちは神を見るとき、神の要素をわたしたちの中へと受け入れ、わたしたちの古い要素は排出されるからです。神を見ることは、造り変えられて、神・人であるキリストの栄光のかたちとなることです。それはわたしたちが、神の命において神を表現し、また神の権威において神を代行するためです。

4. 今日わたしたちが見るこの神は、究極的に完成された霊であり、わたしたちは彼をわたしたちの霊の中で見ることができます。わたしたちはモーニングウオッチ(朝ごとの復興)で、たとえ十五分か二十分だけでも用いて、主と共にいる時間、その霊の中にとどまる時間を持つようにします。
5. わたしたちは主の言を祈り読みし、主に語りかけ、あるいは短い祈りをもって祈ることができます。その時わたしたちは、自分が神の要素を受けていて、神の豊富をわたしたちの存在の中へと吸収しているという感覚を持ちます。このようにして、わたしたちは日々、神聖な造り変えの下にあります。これは完全に、わたしたちがわたしたちの霊の中で、その霊としての究極的に完成された神を見つめることによります。
6. わたしたちは神を見て、神を知って、神を愛すれば愛するほど、ますます自分自身を忌み嫌い、ますます自分自身を否みます——ヨブ 42:6. マタイ 16:24. ルカ 9:23. 14:26。

IV. エレミヤ書の核にある第三の事柄は、キリストがわたしたちにとって何であるのかということです：

- A. 「見よ、その日々が来ようとしていると、エホバは告げられる。その時、わたしはダビデのために義なる若枝を起こす……『エホバわたしたちの義』、これが、彼が呼ばれる彼の名である」——エレミヤ 23:5-6. 参照、33:16：
 1. 「エホバわたしたちの義」は、神性におけるキリストを指します。「義なる若枝」は、人性におけるキリストを指します。
 2. 「エホバわたしたちの義」というこの名が示している事は、ダビデの子孫としてのキリストが、人であるだけでなく、エホバでもあるということです。エホバは、天と地を創造し、アブラハムを選び、イスラエルの種族を起こした方です。またエホバは、ダビデの主であった方、すなわち、ダビデが主と呼んだ方です(マタイ 22:42-45. 参照、啓 5:5. 22:16)。キリストは、ダビデの若枝(ダビデの子)として来ましたが、エホバご自身(ダビデの主)であり、神の民の義となります(I コリント 1:30)：

エレミヤ書と哀歌
メッセージ 2 (続き)

- a. 基礎としてのキリストの贖いをもって、わたしたちはキリストの中へと信じて、神の赦しを受けることができます(使徒 10:43)。そして、神はわたしたちを義とし(ローマ 3:24, 26)、わたしたちに義の上着としてのキリストを着せることができます(イザヤ 61:10)。
 - b. これは、三一の神の具体化であるキリスト(コロサイ 2:9)のために道を開きます。そして彼はわたしたちの中へと入って、わたしたちの命(3:4 前半)、わたしたちの内なる命の法則(エレミヤ 31:33)、わたしたちのすべてとなり、ご自身をわたしたちの全存在の中へと分与して、神の永遠のエコノミーを完成します。
- B. キリストご自身は、神によってわたしたちに与えられた、命の新しい契約(covenant)、新しい遺言(testament)です——イザヤ 42:6, 49:8, エレミヤ 31:31-34, ヘブル 8:8-12:
1. ギリシャ語では、「契約」と「遺言」は同じ言葉が用いられています:
 - a. 契約と遺言は同じものです。しかし、契約を立てた者が生きているとき、それは契約ですが、彼が死んだとき、それは遺言となります。遺言(testament)は、今日の用語では遺言書(will)です。
 - b. 契約は、ある約束を内容とする合意であり、契約をした人のために一定の事柄を成就します。一方で、遺言は、すでに成就されたある事柄を内容とする遺言書であり、それは相続人に遺贈されています——ヘブル 9:16-17, 参照、申 11:29, 28:1, 15, エレミヤ 31:31-32。
 2. 律法の古い契約は神の肖像画ですが、恵みの新しい契約は神のパーソンです——ヨハネ 1:16-17:
 - a. わたしたちがキリストの中へと信じる時、この肖像画のパーソンはわたしたちの中へと入って来ます。そして、わたしたちが霊にしたがって歩き、わたしたちの思いを霊に付けるとき、彼はわたしたちの中で律法の義の要求を満たします——エゼキエル 36:26-27, ローマ 8:2, 4, 6, 10。
 - b. 死を通して、キリストは神の律法にしたがった神の義の要求を満たして、新しい契約を立てました(ローマ 6:23, 3:21, 10:3-4, ルカ 22:20, ヘブル 9:16-17)。そして復活において、彼は新しい契約とそのすべての遺贈になりました(I コリント 15:45 後半, イザヤ 42:6, ピリピ 1:19)。
 - c. 昇天において、キリストは神のエコノミーに関する新しい契約の巻物を開きました。そして、彼は天の務めにおいて、仲保者、執行者と

して、その内容を執行しています——啓 5:1-5. ヘブル 8:6. 9:15. 12:24。

- d. キリストは、ユダ族の獅子^{しし}として、サタンに勝利を得て、サタンを打ち破りました。また、キリストは贖う小羊として、墮落した人の罪の性質と罪の行為を取り去りました。また、キリストは七つの霊として、新しい契約の巻物の内容であるご自身をわたしたちに注入します——啓 5:5-6. ヨハネ 1:29。
 - e. 神の救い、神の祝福、神のすべての豊富は、わたしたちに契約として与えられています。そして、この契約はキリストです。新約の中の数多くの遺贈すべての実際は、キリストです。神は、ご自身をキリストの中でその霊として、わたしたちに遺言として与えています——創 22:18 前半. ガラテヤ 3:14. I コリント 1:30. 15:45 後半. エペソ 1:3. 3:8. ヨハネ 20:22。
3. わたしたちの霊は、新しい契約のすべての遺贈の「銀行口座」です。命の霊の法則によって、これらすべての遺贈はわたしたちの中へと分与され、わたしたちに対して真実なものとなります——ローマ 8:2, 10, 6, 11, 16. ヘブル 8:10. ヨハネ 16:13。
4. 新しい契約の中心、内容、実際は、内なる命の法則です(ローマ 8:2)。その本質においては、この法則は神聖な命を指しており、この神聖な命は三一の神であり、彼はすべてを含むキリストの中に具体化され、命を与える霊として実際化されています(コロサイ 2:9. I コリント 15:45)。三一の神は、すでに手順を経て究極的に完成されており、彼の選ばれた民のすべてとなっています：
- a. 新しい契約において、神はご自身を彼の選ばれた民の中へと入れて、彼らの命となさせます。そして、この命は一つの法則、すなわち、一種の自然な力また自動的な原則です——ヘブル 8:10. ローマ 8:2。
 - b. その命によれば、新しい契約の法則は、手順を経た三一の神です。その機能によれば、新しい契約の法則は、全能の神聖な能力です。この能力は、わたしたちの中であらゆる事を行なって、神のエコノミーを完成することができます。
 - c. 本質において、この法則は、その霊としてのキリストにある神です。機能において、この法則は、わたしたちを神化^{かみか}する能力を持っています(ローマ 8:2, 10, 6, 11, 28-29)。さらにまた、内なる命の法則の能力は、わたしたちをキリストのからだの肢体へと構成して(I コリ

エレミヤ書と哀歌
メッセージ 2 (続き)

ント 12:27. エペソ 5:30)、あらゆる種類の機能を持たせます(ローマ 12:3-8. エペソ 4:11, 16)。

- d. 命の法則をわたしたちの心を書くことは、新約の教えと一致します。新約の教えは、神聖な命が、わたしたちの存在の中心(わたしたちの霊)から、周辺(わたしたちの心)へと拡大することについて述べています(ヘブル 8:10. ローマ 8:9. エペソ 3:17)。神がご自身の法則をわたしたちの心を書くことは、わたしたちの霊からわたしたちの心の中へと動いて、彼であるものをわたしたちの存在の中へと書き記すことによってです(Ⅱコリント 3:3)。
- e. わたしたちは内側にある神聖な命の自然で自動的な機能を通して、神を知る能力を持ち、神を生きる能力を持ち、さらには、神の命と性質において(しかし、神の神格においてではない)神となる能力さえ持ちます。それによってわたしたちは、神の増し加わり、神の拡大となつて、神の豊満となり、神に永遠の表現を得させます——エペソ 3:16-21。